



平成28年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年1月8日

上場取引所 東

上場会社名 マックスバリュ北海道株式会社

コード番号 7465

URL <http://www.mv-hokkaido.co.jp>

代表者 (役職名)代表取締役社長

(氏名)出戸 信成

問合せ先責任者 (役職名)取締役経営管理本部長

(氏名)石岡 忠雄

(TEL) (011) 631-5192

四半期報告書提出予定日 平成28年1月13日

配当支払開始予定日

—

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年2月期第3四半期の業績(平成27年3月1日～平成27年11月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年2月期第3四半期	79,062	10.0	225	△72.9	301	△66.4	△37	—
27年2月期第3四半期	71,859	7.9	832	75.1	898	73.4	282	44.0

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年2月期第3四半期	△5.40	—
27年2月期第3四半期	41.24	41.14

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年2月期第3四半期	32,713	7,784	23.7
27年2月期	27,140	7,547	27.7

(参考) 自己資本 28年2月期第3四半期 7,739百万円 27年2月期 7,521百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年2月期	—	0.00	—	12.00	12.00
28年2月期	—	0.00	—	—	—
28年2月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年2月期の業績予想(平成27年3月1日～平成28年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	109,000	12.8	1,200	△20.6	1,250	△21.7	400	△6.6	57.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年2月期3Q	6,941,350株	27年2月期	6,941,350株
② 期末自己株式数	28年2月期3Q	38,676株	27年2月期	99,576株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年2月期3Q	6,862,198株	27年2月期3Q	6,838,974株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づくレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 金額の表示単位の変更について

当社の四半期財務諸表の表示される科目及びその他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期会計期間及び第1四半期累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前事業年度及び前第3四半期累計期間についても百万円単位で表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P 2
(1) 経営成績に関する説明	P 2
(2) 財政状態に関する説明	P 3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	P 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P 4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P 4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P 4
3. 四半期財務諸表	P 5
(1) 四半期貸借対照表	P 5
(2) 四半期損益計算書	P 7
第3四半期累計期間	P 7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	P 8
(継続企業の前提に関する注記)	P 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P 8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における経営環境は、政府の経済政策や日本銀行による金融緩和政策を背景に、円安・株高の傾向が続き、企業収益や雇用情勢に改善がみられ、緩やかな景気回復の傾向がみられましたが、円安等による原材料価格の上昇等もあり、先行きはなお不透明な状況にあります。当社の属する北海道のスーパーマーケット業界では、お客さまの生活防衛意識は依然高く、節約・低価格志向が継続するとともに、業種・業態を越えた競争はより一層激しさを増し、厳しい経営環境が続いております。

このような環境の下、去る9月1日付で株式会社ダイエーの北海道地域におけるスーパーマーケット事業を承継し、また10月1日付で十勝エリアを地盤とする株式会社いちまるのスーパーマーケット事業を承継いたしました。これにより希薄であった函館エリアと未出店地域であった十勝エリアの店舗を加えることとなり、より充実した店舗網を構築することができました。これらにより、当第3四半期末の店舗数は合計96店舗となりました。今後は、早期に承継店舗の軌道化を図り、経営資源の集中と効率化により強固な事業基盤の構築が実現できるよう努めてまいります。

当第3四半期累計期間におきましては、2店舗の新規出店と8店舗の活性化を実施し、新規出店では7月に「マックスバリュ沼ノ端店(苫小牧市)」、8月に「マックスバリュ弥生店(苫小牧市)」を開店いたしました。2店舗の開店により苫小牧市内は7店舗体制となり、現場である店舗に近いところでスピーディに施策が実行できるよう、新たに苫小牧エリア商品部を設置いたしました。これまで以上に地域商材の品揃えに重きを置き、地域に密着した店舗運営が実現できるようにしてまいります。

また既存店舗の営業力強化を優先の課題とし、前事業年度に引き続き8店舗の活性化を実施いたしました。第2四半期累計期間の5店舗に加え、9月「ザ・ビッグ宮前通店(旭川市)」、10月「マックスバリュ登別店(登別市)」、11月「ザ・ビッグエクスプレス平岸店(札幌市)」の3店舗を改装いたしました。「簡単・便利・すぐ食べられる」をコンセプトにデリカゾーンを強化し、併せて生鮮食品の品揃え、売場づくりの見直しを実施いたしました。

商品・営業面では、お客さまの節約・低価格志向にお応えすべく購買頻度の高い商品の価格訴求を行ってまいりました。具体的には毎週恒例となっております曜日市の販売強化に取り組んでまいりました。また毎週、週間単位で設定し展開している「今週のおすすめ品」の販売強化や圧倒的低価格でご提供する販促企画「安い値!」商品の品目数の増加と展開強化を行う等、引き続き毎日の食生活に欠かせない商品を「より豊かに」「より便利に」そして「よりお値打ちに」ご提供してまいります。

さらにお客さまの信頼を得るために、品切れのない売場の実現を目指しました。品切れの調査と原因究明、対策の実施を継続的に行い、店舗での品切れは大幅に改善することができ、お客さまの期待にお応えできる売場実現に一步前進することができました。

販売促進では、便利でおトクなイオンの電子マネー「WAON(ワオン)」の会員さま拡大を継続実施しており、この取り組みによって来店客数の増大を図ることができました。特に毎月5日、15日、25日の「お客さまわくわくデー」は多くのお客さまにご支持をいただき、毎年伸長し続け、大変好調なセールスとなっております。また今年度より、毎月、旬の食材をおすすめする「イチオン商品」企画をスタートし、売場、テレビ番組、ホームページを連動させ、調理方法等の情報提供に取り組み、大変好調に推移しております。

コンプライアンスの取り組みでは、食品表示の厳格化、衛生管理、労務管理、防災管理に係る内容を重点実施項目として、毎月の店長会議や、商品部員会議、売場担当者会議を通じての教育機会を増やすことで個人のスキルアップと組織体制の基盤固めに努めてまいりました。

これらの取り組みにより、当第3四半期累計期間の客数は前年同四半期比106.8%、客単価は同103.0%となり、売上高は同110.0%と好調に推移いたしました。一方、販売費及び一般管理費は、新規出店の新店投資、店舗活性化の改装投資に加え、電気料金の単価上昇の影響や事業承継に関する費用の発生等もあり前年同四半期比112.9%となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は、営業収益790億62百万円(前年同四半期比110.0%)、営業利益2億25百万円(前年同四半期比27.1%)、経常利益3億1百万円(前年同四半期比33.6%)、法人税率の引き下げによる繰延税金資産の取崩し等により四半期純損失37百万円(前年同四半期は四半期純利益2億82百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて4.8%増加し、101億83百万円となりました。これは、現金及び預金が11億22百万円減少したものの、商品が7億89百万円、未収入金が3億29百万円、売掛金が2億82百万円それぞれ増加したこと等によります。

固定資産は、前事業年度末に比べ29.3%増加し、225億30百万円となりました。これは、建物(純額)が14億51百万円、有形固定資産のその他(純額)が10億79百万円、土地が9億28百万円、無形固定資産が7億61百万円、敷金が6億8百万円それぞれ増加したこと等によります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ20.5%増加し、327億13百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べ8.2%増加し、181億12百万円となりました。これは、設備関係支払手形が11億12百万円増加したこと等によります。

固定負債は、前事業年度末に比べ138.8%増加し、68億16百万円となりました。これは、長期借入金が34億11百万円増加したこと等によります。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ27.2%増加し、249億29百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べ3.1%増加し、77億84百万円となりました。これは、資本剰余金が2億45百万円増加したこと等によります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2016年2月期通期の業績予想につきましては、株式会社いちまるからスーパーマーケット事業を承継したことにより2015年10月7日に公表しております業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日公表の「2016年2月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を平均支払期間に基づく単一の割引率から、加重平均割引率(イールドカーブ等価方式)を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、第1四半期会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期累計期間の期首の退職給付引当金(前払年金費用)が21百万円、期首利益剰余金が13百万円それぞれ減少し、繰延税金資産が7百万円増加しております。また、当第3四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2015年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2015年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,009	886
売掛金	263	546
商品	2,239	3,029
貯蔵品	22	35
繰延税金資産	243	302
未収入金	4,343	4,672
その他	623	736
貸倒引当金	△25	△25
流動資産合計	9,720	10,183
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,454	5,905
土地	5,245	6,173
その他(純額)	1,197	2,277
有形固定資産合計	10,897	14,357
無形固定資産	22	784
投資その他の資産		
投資有価証券	232	231
繰延税金資産	1,540	1,628
敷金	3,066	3,674
建設協力金	1,259	1,238
その他	532	736
貸倒引当金	△130	△120
投資その他の資産合計	6,500	7,388
固定資産合計	17,419	22,530
資産合計	27,140	32,713
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,870	9,925
1年内返済予定の長期借入金	1,555	1,608
未払法人税等	407	-
引当金	45	36
設備関係支払手形	206	1,318
その他	4,653	5,222
流動負債合計	16,738	18,112
固定負債		
長期借入金	1,613	5,024
資産除去債務	506	730
その他	734	1,062
固定負債合計	2,854	6,816
負債合計	19,593	24,929

(単位：百万円)

	前事業年度 (2015年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2015年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,176	1,176
資本剰余金	1,206	1,452
利益剰余金	5,257	5,124
自己株式	△171	△66
株主資本合計	7,468	7,686
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	52	53
評価・換算差額等合計	52	53
新株予約権	26	44
純資産合計	7,547	7,784
負債純資産合計	27,140	32,713

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2014年3月1日 至2014年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自2015年3月1日 至2015年11月30日)
売上高	70,803	77,917
売上原価	55,635	61,462
売上総利益	15,167	16,454
その他の営業収入	1,055	1,144
営業総利益	16,223	17,599
販売費及び一般管理費	15,391	17,374
営業利益	832	225
営業外収益		
受取利息	18	15
貸倒引当金戻入額	16	43
リサイクル材売却収入	22	22
その他	40	33
営業外収益合計	97	114
営業外費用		
支払利息	25	24
その他	6	13
営業外費用合計	31	38
経常利益	898	301
特別損失		
減損損失	274	318
特別損失合計	274	318
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	623	△17
法人税、住民税及び事業税	494	162
法人税等調整額	△152	△142
法人税等合計	341	19
四半期純利益又は四半期純損失(△)	282	△37

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。